

Access できること

Access にはさまざまな機能があり、蓄えてあるデータを幅広く活用することができます。たとえば、割引キャンペーンを実施することになったとします。そこで、割引対象商品を抽出し、1 割引の価格を計算します。次に、東京都内に住んでいる顧客を選び、キャンペーンを実施するはがきを発送します。その結果、たくさんの注文を受けたので、商品を発送し、請求書を発行します。注文を受けた商品は集計をする必要があります。さらに、受注状況を分析し、キャンペーンが成功したか否かを見極めます。これら一連の作業を Access だけでおこなうことができるのです。

下図は本書で作成するオブジェクトの一例です。

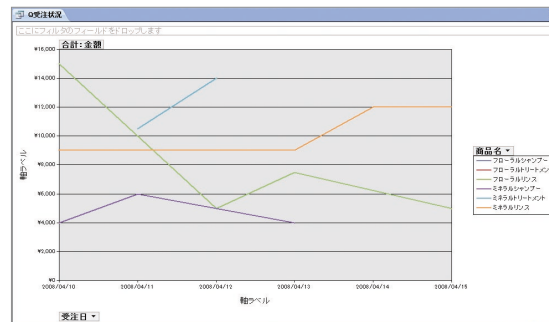
●伝票入力画面を作成する

●はがきを作成する

●請求書を作成する

●指定日に売れた商品を集計する

●受注状況をグラフで見る



リレーショナルデータベースとは

Access は、データベースの主流であるリレーショナルデータベースです。1 つの表だけで構成される表形式のデータベースと違い、複数の表の関連付けができるのが特徴です。関連付けることにより、重複入力などのミスを防ぐことができます。また、受注のたびに長い商品名を入力することもなく、商品リストにない商品を受注一覧には入力できないようにするなど利便性に優れています。

共通のフィールドである「商品コード」を結びつけて関連性を持たせることができる。

●商品コードと商品名が入力されている「T 商品マスター」テーブル

商品コード	商品名	商品区分コード	単価	単位
1001	フローラルシャンプー	A	¥2,000	①(0)
1002	ミネラルシャンプー	A	¥2,000	①(0)
1003	フローラルリンス	B	¥2,500	①(0)
1004	ミネラルリンス	B	¥3,000	①(0)
1005	フローラルトリートメント	C	¥3,000	①(0)
1006	ミネラルトリートメント	C	¥3,500	①(0)
1008	ナチュラルカラー	D	¥2,500	①(0)
1009	その他			①(0)

●受注明細を記録している「T 明細」テーブル

明細ID	受注ID	商品コード	数量
1	1	1001	2
2	1	1002	2
3	2	1003	3
4	2	1004	3
5	3	1001	3
6	3	1002	3
7	3	1005	3
8	4	1006	3
9	5	1003	2
10	5	1006	2
12	6	1006	2
13	7	1001	2
14	7	1002	2
15	8	1003	3
16	8	1004	3
17	9	1004	4
18	10	1003	2
19	10	1004	2
20	11	1004	2
21	1	1003	3

「T 商品マスター」テーブルと関連付けられているので、商品名がなくても認識できるようになっている。商品コードは 4 ケタの数字を使用しているの、長い商品名を入力する必要がない。

「T 商品マスター」テーブルにない商品コードを「T 明細」には入力できないようにすることが可能。

明細ID	受注ID	商品コード	数量
1	1	1001	2
2	1	1002	2
3	2	1003	3
4	2	1004	3
5	3	1001	3
6	3	1002	3
7	3	1005	3
8	4	1006	3
9	5	1003	2
10	5	1006	2
11	5	1007	2
12	6	1006	2
13	7	1001	2
14	7	1002	2
15	8	1003	3
16	8	1004	3
17	9	1004	4
18	10	1003	2
19	10	1004	2
20	10	2000	2

入力して保存しようとするとエラーが表示される